



フォトジャーナリスト

宇田 有三



「何も無い国」から

中米七カ国は、北と南のアメリカ大陸を結ぶ地峡に位置する。日本から見ると、地球の反対側、時差が十五時間のところにある。その中米の中で最大の国はニカラグア共和国。だが、そのニカラグア、旅行者から「何も無い国」と言われることがある。

旅行ガイドブックを見ても、興味をひきそうな記述はあまりない。観光立国／平和の国である隣国コスタリカと比べると、華やかさは感じられない。

ニカラグアの首都マナグア

の「テロ事件」のあと、ニ

米国の行為は実は、国際社会で初めて、国際司法裁判所に「国家テロ」と認定されている。だが、行き過ぎた政策をとったサンタニスタ政権は九〇年、選挙で負けてしまうことになる。

革命二十五周年の記念日(七月十九日)を祝うマナグアを訪れた。首都の広場は、人びとの熱気が渦まいていた。参加者の一人が話してくれた。

「私たちは、今の政権に反対したりサンタニスタ勢力を支持しているだけではないのです。私たちが求めているのは昔も今も、不正義・不公平・不条理な社会体制に異議を唱えることなんです」

「何も無い国」にはまだ、自らの理想とする社会を作り上げようとする人びとの熱意と意欲は残っている。そう報告してもよいのだろうか。

唯一の建物は以前、米国の

「バンク・オブ・アメリカ」

だったのを、今は政府のビルとして使っているにすぎ

ない。これが本場に一国の首都

なのだろうか。そう感じざるを得ない。

米国で起きた九月十一日

の「テロ事件」のあと、ニ

カラグアの名前は、世界の

を行なった。

その結果、ニカラグアは、

年、革命によって社会主義

じられないインフレを経験

政権(サンタニスタ政権) する

ことがあった。だが、

が樹立された。当時は「東

サンタニスタ政府は、米

国のやり方に屈しなかった。

「西冷戦」という時代でもあ

り、レーガン元大統領率い

彼らは、米国の介入を法的

に解決すべく、国際司法裁

判所に訴えたのだ。

極的に軍事介入や経済封鎖

判所に訴えたのだ。